



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587017701	科目番号	05870177
授業科目名	●環境問題を考えるⅡ(環境と民俗)		
編集担当教員	福島 邦夫		
授業担当教員名(科目責任者)	福島 邦夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福島 邦夫		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	kunio-fk@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部新館4階453		
担当教員TEL	095-819-2735		
担当教員オフィスアワー	毎週水曜日12:30~13:30		
授業の概要及び位置づけ	まず、民俗学の方法と対象について学び、次にどんな環境問題があり、さらに民俗学の立場から、環境問題をどのようにあつかうことができるかを理解する。		
授業到達目標	様々な環境問題が説明でき、それについて民俗学の立場からどのような扱いができるかが理解できる。		
授業方法（学習指導法）	基本的に講義形式で行うが、できる限り、口頭による質疑応答をとりいれ、またレスポンスペーパーを用い、質疑、批判、意見などを確認する。ハンドアウトやビデオなども利用して理解を深める。		
授業内容	回	内容	
	1	授業の進め方 民俗学について	
	2	民俗学の方法と対象 1	
	3	民俗学の方法と対象 2	
	4	民俗学の方法と対象 3	
	5	環境問題、環境問題をとらえる3つの立場	
	6	環境問題 人にとっての環境	
	7	環境問題 公共事業	
	8	環境問題 川の問題	
	9	環境問題に関係する用語	
	10	環境問題への民俗学的アプローチ 1 山と杜	
	11	環境問題への民俗学的アプローチ 2 米作と食	

	12	環境問題への民俗学的アプローチ 3 生活環境
	13	環境問題への民俗学的アプローチ 4 季節学
	14	環境問題への民俗学的アプローチ 5 コモンズなど
	15	環境民俗学のこれから
	16	全授業の総括
キーワード	民俗文化 生業 環境思想 環境民俗学	
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜ハンドアウト配布する。	
成績評価の方法・基準等	授業内の課題（20％）小テスト，レスポンスペーパー（20％） レポート（60％）	
受講要件（履修条件）	原則として全出席することを単位認定の条件とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	新聞，テレビ，ラジオなどのメディアにのる環境問題に関心をもち，それらをよく読み，または見聞してほしい。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587018101	科目番号	05870181
授業科目名	●環境問題を考えるⅡ(環境と社会運動)		
編集担当教員	戸田 清		
授業担当教員名(科目責任者)	戸田 清		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	戸田 清,保坂 稔		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	教育、経済、薬学、水産 1、2、3、4年		
担当教員Eメールアドレス	toda@nagasaki-u.ac.jp hosaka@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部 4 階環404戸田教員室 環427保坂教員室		
担当教員TEL	戸田095-819-2726 保坂095-819-2728		
担当教員オフィスアワー	戸田金曜16-17時 保坂木曜 9 時30分－10時30分		
授業の概要及び位置づけ	公害・環境問題を環境社会学の観点から考察する。全学モジュール科目「人間と環境」の選択科目。		
授業到達目標	公害・環境問題を環境社会学の観点から説明できる。企業、行政、専門家、市民の役割や対立点を説明できるようになることも目指す。		
授業方法（学習指導法）	教科書、プリント、映像などを用いて授業を行う。口頭や質問感想用紙での積極的な質問や発言を期待したい。		
授業内容	前半の7回（保坂）は環境問題の分析について環境社会的な見方を深める。後半の7回（戸田）は具体的な事例を通じて環境社会学を学ぶ。15回目はまとめ、16回目は定期試験。		
	回	内容	
	1	社会運動分析 環境社会学への誘い	
	2	社会運動論 緑の党	
	3	エコファシズム	
	4	公共圏	
	5	リスク社会論	
	6	社会的ジレンマ論	
	7	計量的な社会意識調査	
	8	水俣病 公害の原点 なぜ半世紀も混乱が続くのか	
	9	水俣病その 2	
	10	カネミ油症 60年かかってわずかな前進	
	11	原発事故と原発被曝労働	

	12	ベトナム枯葉作戦と劣化ウラン弾 戦争と環境破壊
	13	農業問題 特にネオニコチノイド
	14	遺伝子組み換え作物
	15	まとめ
	16	定期試験
キーワード	公共圏、リスク社会、社会的ジレンマ、オルタナティブ運動、水俣病、カネミ油症、原発事故、受益圏と受苦圏	
教科書・教材・参考書	教科書は戸田清『環境正義と平和』法律文化社2009年。参考書は適宜紹介する。プリント配布、映像の視聴を行う。	
成績評価の方法・基準等	定期試験 80%、レポート 20%	
受講要件（履修条件）	受講要件は特にない。	
備考（URL）	http://todakiyosi.web.fc2.com/	
学生へのメッセージ	教科書を通読すること。講義内容を図書館利用やインターネットで深めてほしい。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587018501	科目番号	05870185
授業科目名	●環境問題を考えるⅡ(環境問題の歴史から学ぶ)		
編集担当教員	菅原 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	菅原 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅原 潤, 正本 忍, 宮西 隆幸		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	suga@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	菅原潤		
担当教員TEL	095-819-2730		
担当教員オフィスアワー	火曜日14：30～16:00		
授業の概要及び位置づけ	一般に環境問題は80年代以降世界的に知られるようになったと言われているが、それ以前にも大規模な自然破壊や、これにともなう生体の健康に与える深刻な 影響が報告されている。この講義ではそれらの事例を踏まえながら、ローカルな視点で環境保護を訴える立場を模索することとする。		
授業到達目標	80年代以前の環境問題の歴史について説明できる能力を身につける。		
授業方法（学習指導法）	講義形式でおこなう。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション（80年代以前の環境問題の歴史）	
	2	イースター島の教訓	
	3	人間の領域の拡大-人と森のヨーロッパ史-	
	4	ヨーロッパの拡大と環境破壊	
	5	工業化の進展と環境破壊	
	6	生体に与える環境響因子について	
	7	大気と温度と水の問題	
	8	無機イオンと内分泌攪乱物質について	
	9	環境的因子における生物学的インパクト	
	10	生体に与える環境響因子の具体例	
	11	自然的環境と人間的環境	
	12	水俣病から見た公害問題	

	13	公害問題から地域環境問題へ
	14	風景の倫理学
	15	環境と公共圏
	16	まとめ
キーワード	環境破壊、環境響因子、風景	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	各講義ごとのレポートによる評価	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	地球環境問題以外にも環境問題があることを意識して、授業に臨んでください。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587018901	科目番号	05870189
授業科目名	●環境問題を考えるⅡ(地域の環境を考える)		
編集担当教員	中村 修		
授業担当教員名(科目責任者)	深見 聡		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深見 聡,中村 修		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	fukami@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部4階438教員室		
担当教員TEL	095-819-2720		
担当教員オフィスアワー	木曜日4,5時間目		
授業の概要及び位置づけ	環境問題は、人間や自然の相互作用により複雑多様化しています。その対応策として、地域に共通する法則性や特殊性(=地域特性)に注目した、持続可能な地域づくりのあり方が重要です。その一つに、エコツーリズムやジオツーリズムといった環境に配慮した「観光」の取り組みがあり、近年特に注目を集めています。そこで本講義では、「観光」をキーワードに掲げ、私たちの生活に身近な題材や時事問題として関心の高まっている環境問題をピックアップし、「観光」の視点からその本質に迫ります。		
授業到達目標	1.環境問題を考える上で、観光が果たす役割について説明できる。 2.観光現象をとらえる地域調査の方法にふれ、その基本を習得する。 3.持続可能な地域づくりのあり方について、具体的な提言ができる。		
授業方法（学習指導法）	テキストや新聞記事等の配布資料を中心として、視聴覚機器(パワーポイントやDVD)を用いながら進めていきます。また、毎回レスポンス用紙を記入・提出してもらい、質疑応答の機会を多く準備し、講義の理解促進を図ります。		
授業内容	第1回 オリエンテーション／環境問題の多様化 第2回 環境と観光 第3回 エコツーリズム(1) 第4回 エコツーリズム(2) 第5回 ジオパークとジオツーリズム(1) 第6回 ジオパークとジオツーリズム(2) 第7回 世界自然遺産(1) 屋久島 第8回 世界自然遺産(2) 小笠原諸島 第9回 世界文化遺産 琉球王国関連遺産、軍艦島 第10回 環境と観光の最前線(1) 30年後のフクイチ観光地化計画 第11回 環境と観光の最前線(2) 水俣の環境教育旅行 第12回 環境と観光の最前線(3) 災害復興への貢献		

	第13回 条件不利地域における観光(1) 薩摩硫黄島 第14回 条件不利地域における観光(2) 小値賀島 第15回 安全と観光 第16回 期末試験
キーワード	地域の視点、環境と観光、観光の多義性、エコツーリズム、島嶼
教科書・教材・参考書	教科書：深見聡『地域コミュニティ再生とエコミュージアム-協働社会のまちづくり論-』（青山社、2007年） 教材：適宜プリント等を配布する。 参考書：深見聡・井出明編『観光とまちづくり-地域を活かす視点-』（古今書院、2010年）
成績評価の方法・基準等	期末試験50%、授業への参加状況50%
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	http://blog.livedoor.jp/satoshifu/
学生へのメッセージ	現場を知ること、既存の研究を学ぶことなどを通して、世の中を見る目、各自の視点の確立を目指します。





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅡ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587019301	科目番号	05870193
授業科目名	●環境問題を考えるⅡ(海洋生物の遺伝子多様性)		
編集担当教員	和田 実		
授業担当教員名(科目責任者)	和田 実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 実,井上 徹志,山口 健一,菅 向志郎		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	2年生		
担当教員Eメールアドレス	miwada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	分子生物学的な観点から海洋生物の多様性について説明できるようになる。		
授業到達目標	分子生物学的な観点から海洋生物の多様性について説明できるようになる。		
授業方法（学習指導法）	アクティブラーニング：課題についての調べ学習とプレゼンテーション、および 学生どうしによる評価		
授業内容	1：海洋微生物の遺伝子多様性 2：発酵食品の多様性 3：生理活性物質の多様性 4：遺伝子多様性の解析手法 それぞれの項目ごとに総括の時間を設ける。		
キーワード	海洋微生物、遺伝子多様性、進化、系統、発酵食品、生理活性物質、遺伝子解析技法		
教科書・教材・参考書	特になし。		
成績評価の方法・基準等	担当課題のプレゼンテーション実践、および評価シート等のすべての提出を前提とし、授業への参加度も考慮にいきます。		
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
学生へのメッセージ	本授業では「海洋生物の遺伝子多様性」について「自主的に学ぶための指針」を提供することを心がけています。具体的には、海洋生物の遺伝子多様性に関わる 課題について、「自ら調べた学習内容の発表」と「仲間の発表に対する評価」という2つを実践します。 従来の座学中心ではないため、与えられた課題について事前に予習しておくことがとても大切になります。		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.